

平成30年度の学校評価の重点目標

重点目標		<ul style="list-style-type: none"> <li>・学校全体でカリキュラムマネジメントを推進する。</li> <li>・社会貢献のために未知なるモノを創造する力を身につけ、良識ある社会人としてのモラルを実践できる総合力を育成する。</li> <li>・課題発見力と質の高い探究心を育成する。</li> <li>・高度な知識の獲得、その活用方法の習得、活用する心の滋養、活用する行動力を育成する。</li> <li>・安全衛生委員会など既存の組織を活用しながら、業務改善に向けた取組を行い、多忙化の解消に努める。</li> </ul>	
項目(担当)	重点目標	具体的方策	留意事項
教務	業務の一層の効率化と改善を目指すとともに、次期学習指導要領に向けた周知に努め、授業改善に向けた取組を促す。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・それぞれの担当業務について、現状における問題点を整理し、情報共有に努め、改善策を部会で検討していく。</li> <li>・教科主任会や教科会を通じ、特に次期学習指導要領における「主体的な学び」の実現に向けた授業作りへの取組を促す。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学年会や教科主任会等を通じ、情報の収集や意見の集約に努める。</li> <li>・授業改善の方向性が、考査や評価の在り方にも生かされるよう留意する。</li> </ul>
総務	給付型奨学金が多種多様化し、募集が本格化する状況に対し、学校全体で協力して手続きの指導ができる体制を確立する。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学年会や他分掌との連携を密にし、必要な情報を適切に生徒に伝えるようにする。</li> <li>・また、学年会の中の生徒情報等を担当者で共有し、奨学金に関する指導に活かされるようにする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・給付型奨学金と貸与型奨学金の違い、応募の条件や返還の仕方等について生徒にも理解させ、的確な判断に基づき手続きすることができるように指導する。</li> </ul>
生徒指導	「礼節を重んぜよ」を基盤とした行動の実践と、明和生としての帰属意識を高める。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・日々の遅刻指導や身だしなみ指導を通して、節度ある行動(挨拶、身だしなみ、言葉遣い)や時間管理などの社会的資質を向上できるようにする。</li> <li>・情報モラルに関して、情報化の問題点を理解し、良識ある行動がとれるようにする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・生徒情報を共有しながら各学年と協力して対応する。</li> <li>・全体集会時に情報モラルに関する講話を取り入れる。関係機関が作成した資料も活用していく。</li> </ul>
進路	職員間で進路指導に対する共通認識を持ち、学校全体で組織的で継続性のある進路指導を展開し、生徒一人一人のキャリアデザインに基づいた進路実現を図る。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・実力考査のデータの有効活用を図るため、実力考査のよりよいあり方を検討し改善案を提示する。</li> <li>・キャリア教育の充実に向けて、各種ガイダンスを改善し、1、2年生における進路意識の高揚を図る。</li> <li>・各学年で行われる進路情報交換会の内容の充実を図り、最後まで第一志望を大切にす進路指導を展開する。</li> <li>・高大接続改革の対応策として、ポートフォリオ作成などを通して調査書作成の準備を具体化していく。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・宿題考査、実力考査のあり方を引き続き検証する。</li> <li>・「進路通信」等を通じて、各種ガイダンスの周知を図るとともに、HPの一層の活用を図る。</li> <li>・組織的で継続的な進路指導ができるようにデータを整理分析し学年へ提供する。</li> <li>・高大接続改革に関する情報を的確に把握し、学年会や各教科にその情報を伝達し、適切な学習指導、進路指導に資する。</li> </ul>
保健相談	快適な学校環境を実現するとともに、生徒の心身の健康増進を手助けする。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・日頃の清掃や点検活動を通し、自ら環境美化に務める姿勢を育成する。</li> <li>・学年との情報交換を通して、早期に連携して生徒対応ができるようにする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・保健委員会、安全委員会を通じて、清掃・安全点検活動を充実させる。</li> <li>・部会とともに週1回の相談会議を通して、生徒情報を共有し、対応を協議する。</li> </ul>
生徒会	自主自立の精神に基づき、全校生徒が主体的に活動できるような企画、運営を行う。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・各行事の持つ意味についてあらためて考え、目的を意識して企画、運営する。</li> <li>・効率的な行事運営をし、種別委員会の負担を減らす。</li> <li>・東北被災地関連の企画を継続して行う。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・行事は生徒会だけではなく全校生徒が関係し運営していると意識させ、相互に感謝の気持ちを持てるようにする。</li> <li>・特に反省会に時間がかかりすぎる点を改善させたい。その際、次年度への改善案の作成や次期委員長への引継ぎが疎かにならないようにする。</li> <li>・被災地関連の企画によって、社会の人々が様々な活動で結びつき、助け合っているということに気づかせる。</li> </ul>
図書情報	<ul style="list-style-type: none"> <li>・生徒および教員の図書館利用を活性化する。</li> <li>・校務支援システム運用のサポートと個人情報管理の徹底を図る。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・生徒図書部の活動が主体的に行われるようにし、特に図書館報の内容を充実させる。</li> <li>・時宜にかなったテーマ本の展示を行う。</li> <li>・校務支援システム運用のため教務部・進路部と連携を図る。</li> <li>・個人情報の入ったファイルについてパスワード設定を徹底する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・昨年から始まった課題探究の授業が図書館で15時間行われた。本の貸出冊数増加のため、更に各教科と連絡を密にしていきたい。</li> <li>・校務支援システム運用のため情報共有に努める。</li> <li>・情報の分類表作成時にパスワードの設定を確認してもらう。</li> </ul>

研究 開発	課題研究に対する先進的な指導法と評価法を確立し、学校全体として組織的に取り組む。	計画的に評価場面を設け、ルーブリック評価を実施し、課題研究に対する指導法の改善を加える。また、SSH行事だけでなく、教科・科目においても問題意識を持たせる場面を増やし、探究的な学びの場を充実させる。	ルーブリック評価で得られたデータを共有することで、学校全体で探究活動の指導法の改善に取り組み、社会貢献に必要な質の高い探究心を身に付けさせることを目指す。
音楽	・美しい音楽は美しい環境から生まれることを浸透させる。  ・主体性をもって学ぶ姿勢を身につけさせる。	・清掃活動時の分担を細かく振り分けて責任を持たせる。 ・楽譜や楽書、および楽器について、整理整頓に努め、共用の備品の取り扱いについてのルールを徹底させる。 ・演奏技術の修練だけではなく、豊かな感性と幅広い教養が身につくように様々な教科との連携を図り学習を深めていけるようにする。	・日常生活習慣を整えることで、実技練習や学習に対する取り組み方も改善していきたい。  ・知識、技術、感性、思考力、表現力をバランスよく育てていけるよう工夫していく。
1年	・基本的生活習慣を整えるとともに、自らの学習法を確立し、何事にも積極的に取り組むことで主体的に社会に貢献できる素養を育む。	・時間や期限を守る、授業を大切に学習に臨む、学校行事や清掃などに積極的に取り組むといった、高校生として「あたりまえのこと」をあたりまえにやる姿勢を身につけさせる。	・生徒についての情報を学年会で共有し、生徒が心身のバランスのとれた学校生活を送ることができるよう、多方面からの支援を行う。
2年	・中核学年として、部活動・学校行事に積極的に取り組ませる。 ・自己の将来について主体的に考えさせ、進路実現に向けて計画的に学習に取り組ませる。	・学習活動と特別活動の切り換えを意識させ、時間を有効に使えるよう指導する。 ・行事や修学旅行を通して、公共心や協調性を身につけられるよう指導する。 ・文理選択に向けて、自己の進路について更に高い意識を持てるよう指導する。	生徒についての情報を学年団で共有し、生徒がバランスのとれた学校生活を送ることができるよう、様々な角度から援助する。
3年	生徒の進路実現を図るとともに良識ある社会人を育成する。	生徒の進路希望・学習状況の情報を学年会で共有し、本校の生徒の特性を十分考慮した適切な進路指導と学習指導を行う。周囲に配慮し、モラルある行動が実践できるよう指導する。	意識、意欲を高く持たせ、それに向かって主体的に努力できるよう様々な工夫をする。
いじめ防 止基本方 針に基づ く取組	いじめの未然防止、早期発見を図る。	生徒の不安や悩みを把握するため、年2回の「いじめ・迷惑行為調査」、個人面談、健康観察等を実施する。	教育相談・特別支援教育委員会を中心に、生徒の悩み等の把握が迅速に行われるようにする。
勤務時間 の適正な 管理及び 長時間労 働による 健康障害 防止の実 施状況	在校時間が月80時間を超過している教員の割合を5%以下にする。	・職員室の開錠時間及び最終施錠時間を適切に設定し、合理的な働き方の工夫を推進する。  ・安全衛生委員会の定めた定時退校日を周知徹底し実施する。 ・部活動総合指導員と関係顧問が連携し、土休日の職員の負担を軽減する。	・年度当初及び年度末の繁忙期を除き、時間が厳守されるように努める。また、長期休業中については別途適切な時間を設定する。 ・定時退校日の職員室の最終施錠時間は17:00とする。 ・部活動総合指導員のモデル事業校として、日常的に問題点や利点の整理を心がけ、県に報告できるようにする。
学校関係者評価を実施する主な評価項目		・次期学習指導要領を視野に入れながら、SSH事業を中心に据えた学校全体でのカリキュラムマネジメントを推進し、2年目となる教育課程を円滑に効果的に実施するために、職員間の連携や工夫ができたか。 ・学年や分掌や部活動等における業務改善の取組によって、多忙化解消を図ることができたか。	